

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名：

三朝医療センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1. 独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同研究を進展させるとともに、低線量放射線環境安全・安心工学研究教育において、当該分野に精通した技術者・研究者・医療従事者の育成を目指す。	独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター及び大学院保健学研究科との共同研究(極微量ウラン影響効果試験)を継続した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 (この領域は斜線表示)	(この領域は斜線表示)
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 1. 外来診療のみではあるが、鳥取県中部地域において、入院機能補完のための実効性のある病病連携・病診連携を確立し、老年期疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、骨・関節疾患、生活習慣病など)を対象とした地域医療の質の向上を図る。 2. チーム医療の積極的取り組みを行うことによって、発展性のある外来診療体制を確立し、患者の生活の質中心の医療に心がけ、高齢者にとってより安全・安心な医療の提供に努める。 3. 平成24年度より三朝町と共同で開始した「ラドン温泉鉱泥湿布施設活用事業」を継続・推進する。その中で、「鉱泥湿布無料体験」者の更なる増加を図ることによって、外来患者の増加につなげる。温泉療法を活用することによって、より多くの人々の健康増進に寄与するとともに、地域活性化および病院経営改善への貢献に努める。	1. 老年期疾患の中で、特に慢性呼吸器疾患および肝疾患において、鳥取県中部地域では中心的役割を担った。慢性呼吸器疾患に対して、在宅酸素療法15名、在宅人工呼吸療法4名の実績があった。また、肝疾患においては、肝炎専門医療機関として中部の取り組みに積極的に協力している。 2. 院内関連部署で話し合いを繰り返し行い、外来診療体制の再構築を行った。また、患者のQOL(生活の質)向上に努めるため、39th ISMH・第79回日本温泉気候物理医学会、鳥取県中部吸入療法研究会などの研究会や学会、講演会へ積極的に参加した。また、患者アンケート調査を実施し、患者満足度の向上につなげた。なお、1日平均の患者数は、病棟の休止や患者の高齢化等により減少した。 3. 三朝町と「ラドン温泉鉱泥湿布施設活用事業」の事業委託の契約を締結し、「鉱泥湿布無料体験」を展開し体験者は1,500名(昨年度1,243名)を超え、この委託事業は、来年度も引き続き継続することとなった。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
患者満足度アンケートの満足度向上(満足度90%以上) 1日平均の患者数 「鉱泥湿布無料体験」の利用数	
【総括記述欄】	
三朝医療センターは、平成24年4月以降、外来診療のみを展開し今日に至っている。平成23年度4名の医師数が、平成24年4月から3名、8月から2名に削減されており、平成26年度も変更はなかった。また、今年度も医療スタッフのモチベーションを維持・向上できるような外来診療体制を確立するため、センター内で「努力目標」を設定し、3回の中間評価と最終評価を実施した。しかし、現在の三朝医療センターは、病床が廃止ではなく休止状態であるため、あくまで病院の人員配置が必要であり、医師数が2名では病院の要件を満たしていない。そのことについては、医療監査でも不備を指摘されており、現状の体制のまま運営することは、法令を違反し続けることになるため、早急に改善が必要であることを病院執行部に訴えてきたところであり、病床休止等に伴う毎年の赤字経営から脱却するため、昨年12月に三朝医療センターのあり方に関するワーキンググループが設置され、センターの今後についての結果がとりまとめられ、来年度はその結果の実現に向け準備を進めていくこととなる。	